

年明け早々一月十二日に、第三回じゃんがらフォーラム」を開催しました。写真。じゃんがら念仏踊りとは、福島県いわき市を中心に分布・伝承する郷土芸能で、鉦と太鼓を打ち鳴らしながら新盆を迎えた家などを供養して回る踊り念仏の一種です。市の無形民俗文化財に指定されています。江戸時代初期からの歴史があり、いわき市だけでなく、広野町、檀葉町、大熊町、双葉町、小野町、平田村、古殿町、そして、茨城県北茨城市など広域で継承されています。その担い手は青年会や保存会、子ども会、学校な

東北復興日記

75



いわき市文化活用
実行委員会代表
里見喜生さん

じゃんがら 途絶えさせねえ

ど、さまざまです。

今回のフォーラムは文化庁の補助事業の一環として開催しました。各地域のじゃんがらの特徴、歴史や魅力などを披露しました。



東日本大震災、原子力発電所事故では、これら無形民俗文化財にも広範に被害が及びました。農山漁村の小さな地域に伝わってきたじゃんがら。原発事故による避難

指示で、じゃんがらを構成していた地域の人たちが全国各地に住まいを移すこととなってしまい、活動するにも厳しい状況に陥る地域もありました。無形文化財は、受け継がれることによりその伝統的価値があるものです。

今回のフォーラム前日、双葉町山田の人たちと夕食を共にしました。双葉町は現在も避難指示が解除されておらず、メンバーは山形県、埼玉県、福島県内各地などに分散しています。

「このままでは途絶えてしまうべ」「練習してねえからちゃんとたけねえ」と不安の声も聞かれましたが、当日本番の堂々とした踊りを見せられ、胸が熱くなりました。どんなに不遇な目に遭おうと、俺たちが生きていく限り双葉町山田のじゃんがらは途絶えさせねえ。郷土愛が簡単に屈するわけにはいかない。踊りを通して、そんな声が聞こえました。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。